



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2010.8

No. 316

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



# 本年11月1日から、「日本野鳥の会埼玉」に名称変更します

## 平成22年度(第26回)支部総会報告

平成22年6月27日(日)午後1時30分から、さいたま市民会館うらわで、支部総会を開催しました。

### ●記念講演



長野誠治の司会で始まり、記念講演は財団普及室普及教育グループの岡本裕子さん(左写真)の「自然を守る仲間を増やす“グリーン・ホリデー”プロジェクト」。野鳥の生息環境を守る作業を実体験するため、参加費を払って参加するボランティア活動が紹介されました。

### ●表彰式など

藤掛保司支部長の開会の挨拶で総会が始まり、昨年の県内鳥見ランキング探鳥会参加回数と観察鳥種数の部、両方で第1位となった船木数樹氏に対する表彰状が読み上げられました。欠席された船木氏には、後日手渡されます。

榎本秀和が議長に、浅見徹が書記、田邊八州雄・橋口長和が議事録署名人に選出されて、議事に入りました。

### ●新規約案

議事の順番としては最後でしたが、今回最も重要だった議案は新規約案です。

役員会から提出された案は、現行の支部規約をもとにして、公益法人制度改革によって「支部」という名称が使えなくなったので名称を「日本野鳥の会埼玉」と変更すること、「支部長・副支部長」の名称を「代表・副代表」、「支部報」を「会報」とするなど用語を書き換え、新規約の施行日を本年11月1日とすることが骨子です。

施行日は、財団法人日本野鳥の会(本部)が10月中に新制度による「公益財団法人日本野

鳥の会」になる予定なので、それに合わせたものです。

事務局長海老原美夫から、公益法人制度改革は、(明治29年の民法による)大変古いままであった制度を抜本的に改正するため一連の法律が制定されたものであり、野鳥の会だけではなくすべての公益法人が対象になることなどが説明され、質疑応答の後、満場一致挙手による賛成で承認されました。

新規約の全文を4ページに掲載しますが、文字が小さくて申し訳ありません。支部ホームページでもご覧いただけます。

### ●21年度事業報告・21年度収支決算

主な内容は次の通りです。

#### [総務・事務局関係]

残念ながら21年度も会員数が減少した。対策のひとつとして、埼玉県支部入会用の振替用紙を作成配布したが、会員増加には結びつかなかった。

#### [保護活動関係]

カワウ問題協議会・見沼田んぼネットワーク・全国密猟問題シンポジウムなどに参加。

#### [普及活動関係]

普及部(部長:橋口長和)が担当した探鳥会は、計画117回、雨天中止12回、実施105回=1ヵ月平均8.8回、合計参加者数4,062人=1回平均39.7人に及んだ。その他、学校関係など15件の普及活動。

#### [調査研究関係]

研究部(部長:小荷田行男)は、タカの渡り、カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類、県内野鳥分布調査などを継続。

記録委員会(委員長:小林みどり)は、1種を希少例として報告。

#### [編集活動関係]

編集部(部長:山部直喜)は、『しらこぼと』を年12回、合計24,000部発行。

#### [事業活動関係]

事業部(部長:福井恒人)は収益目的では

ない会員の利便のための事業活動を継続。  
事業報告の全文も支部ホームページでご覧いただけます。

21年度収支決算は右表の通り。石川敏男・楠見邦博両監事が監査結果を報告しました。

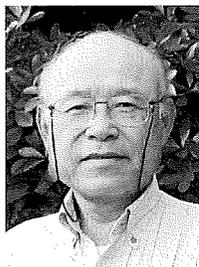
### ●22年度事業計画・22年度収支予算

基本的な自然保護の知識と思想の普及に重点をおく22年度事業計画案、名称変更に伴う腕章作製費用などを含む仕器備品費などの22年度収支予算案が説明されました。

21年度事業報告・決算、22年度事業計画案・予算案は、それぞれ拍手で承認されました。

### ●22年度役員

前年度役員のうち北川慎一が退任しました。それ以外の42名を再任、長嶋宏之(右写真)を新任として推薦する案が承認されました。総会議事終了後22年度役員による最初の役員会を同じ場所で開催、前年度と同じ支部長・副支部長・監事が選出されました。



【支部長】 藤掛保司(川越市)

【副支部長】 海老原美夫(さいたま市)

【幹事】 青木正俊(さいたま市) 浅見徹(さいたま市) 新井巖(深谷市) 石井智(鴻巣市) 石光章(所沢市) 伊藤芳晴(川口市) 井上幹男(長瀨町) 入山博(春日部市) 内田孝男(古河市) 榎本秀和(鴻巣市) 大坂幸男(上尾市) 大澤祐(深谷市) 倉林宗太郎(さいたま市) 小池一男(寄居町) 後藤康夫(嵐山町) 小荷田行男(さいたま市) 小林みどり(大和市) 佐久間博文(川越市) 杉本秀樹(習志野市) 須崎聡(川口市) 田中幸男(蓮田市) 田邊八州雄(越谷市) 玉井正晴(蓮田市) 千島康幸(小川町) 手塚正義(川口市) 内藤義雄(鴻巣市) 中里裕一(加須市) 中島康夫(蓮田市) 長野誠治(さいたま市) 中村豊己(東松山市) 橋口長和(春日部市) 長谷部謙二(川越市) 菱沼一充(白岡町) 福井恒人(さいたま市) 持丸順彰(志木

市) 山口芳邦(新座市) 山部直喜(三郷市) 吉原俊雄(北本市)

【監事】 石川敏男(春日部市) 楠見邦博(さいたま市)

### 日本野鳥の会埼玉支部 平成21年度決算・22年度予算

#### 収入の部

	項目	21年度決算	22年度予算
一般会計	期首繰越金	3,677,301	2,997,857
	会費	3,195,250	3,000,000
	寄付金	54,417	10,000
	探鳥会参加費	275,676	300,000
	雑収入	7,395	10,000
	仮払金清算	104,977	0
	補助金	200,000	200,000
	一般会計合計	7,515,016	6,517,857
事業部会計	期首繰越金	2,104,406	2,164,625
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	事業部売上金	463,719	700,000
	事業部雑収入	20,335	5,000
	事業部会計合計	7,588,460	7,869,625
総計		15,103,476	14,387,482

#### 支出の部

	項目	21年度決算	22年度予算
一般会計	仕器備品費	602,099	400,000
	消耗品費	9,778	40,000
	支部報印刷費	1,247,400	1,300,000
	支部報発送料	835,596	900,000
	印刷コピー代	91,645	300,000
	通信費	133,588	150,000
	雑費	138,747	140,000
	家賃	984,000	984,000
	水道光熱費	52,294	60,000
	総務部費用	143,180	140,000
	普及部費用	189,388	220,000
	編集部費用	34,500	50,000
	研究部費用	8,832	10,000
	予備費	0	300,000
	仮払金	46,112	0
	期末繰越金	2,997,857	1,523,857
	一般会計合計	7,515,016	6,517,857
事業部会計	事業部仕入れ金	422,155	600,000
	雑費	1,680	5,000
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	期末繰越金	2,164,625	2,264,625
	事業部会計合計	7,588,460	7,869,625
総計		15,103,476	14,387,482

# 日本野鳥の会埼玉規約(2010年11月1日施行)

## 第1章 総則

第1条(名称) 本会は日本野鳥の会埼玉と称する。

第2条(事務所) 本会は事務所を埼玉県さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号室に置く。

第3条(目的) 本会は公益財団法人日本野鳥の会(以下「野鳥の会」という)の連携団体として、野鳥の会及び他の連携団体と協力し、自然にあるがままの野鳥に接して楽しむ機会を設け、また野鳥に関する科学的な知識と適正な保護思想を普及することで、埼玉県民の間に自然尊重の精神を育て、人間性豊かな社会の発展に役立つことを目的とする。

第4条(事業) 本会は第3条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 探鳥会その他の行事の実施
- (2) 野鳥等の調査、研究
- (3) 野鳥を中心とした自然保護に必要と認められる諸活動
- (4) 会報その他の出版物の刊行と頒布
- (5) 会員相互の親睦、品位保持、向上に関する施
- (6) その他本会の目的を達成するために必要な事業

## 第2章 会員

第5条(構成員) 会員は原則として野鳥の会の埼玉県内の会員によって構成する。

第6条(会費) 会員は会費を納入しなければならない。  
2. 会員の資格を失った時、既に納めた会費の返還はしない。

3. 会員の種別と会費、入会金は次の通り。

- (1) 個人特別会員(野鳥の会誌『野鳥』と本会会報『しらこぼと』を購読し、野鳥の会を特に支援する会員)年会費12,000円(野鳥の会会費10,000円、本会会費2,000円)入会金なし
- (2) 総合会員(『野鳥』と『しらこぼと』を購読する会員)年会費7,000円(野鳥の会会費5,000円、本会会費2,000円)入会金1,000円
- (3) 地域型会員(『しらこぼと』のみを購読する会員)年会費3,000円(野鳥の会会費1,000円、本会会費2,000円)入会金1,000円
- (4) 家族会員(上記3種の会員の家族)年会費500円(野鳥の会会費500円、本会会費なし)入会金なし

4. 野鳥の会会費については、野鳥の会の規定による各種割引制度の適用もある。

第7条(入会) 会員になるようとする者は、入会申込書に会費と入会金(必要な場合)を添えて、野鳥の会又は本会に提出しなければならない。

第8条(退会) 会員が会費を滞納したときは、退会となる。

2. 会員が野鳥の会及び本会の名誉を著しく傷つけ、または野鳥の会及び本会の目的に反する行為のあるとき、あるいは野鳥の会及び本会の存在を害するおそれのあるときは、役員会の決議を経て退会させることができる。

## 第3章 役員

第9条(役員) 本会には次の役員をおく。

- (1) 代表1名
- (2) 副代表3名以下
- (3) 幹事若干名
- (4) 監事2名

第10条(役員の実任) 役員は総会において、家族会員を除く会員の中から選任する。

2. 代表、副代表及び監事は役員の実任による。

第11条(役員の実任) 代表は本会を代表し業務を総理する。

2. 副代表は代表を補佐して業務を掌理し、あらかじめ代表が定める順位により、代表が事故あるときはその職務を代行する。

3. 幹事は役員会を構成して本会の業務に関し審議決定し、会務を分担して事業を遂行する。

4. 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 幹事の業務執行状況の監査
- (2) 本会の財産状況の監査
- (3) 本会の業務または財産に関し、法令もしくは規約に違反する重大な事実があることを発見した場合

における、総会への報告

(4) 前号の報告をするため必要がある場合、総会の招集

(5) 幹事の業務執行状況又は本会の財産状況について幹事に意見を述べる

(6) 前号の意見陳述のため必要がある場合、役員会の招集

第12条(役員の実任) 役員の実任は1年とする。再任を妨げない。

2. 役員は任期終了後も後任者が就任するまでその職務を行う。

第13条(役員の実任) 役員が本会の役員として不適当と認められる時は役員会の3分の2以上の議決又は総会においてこれを解任することができる。

第14条(顧問) 本会には必要に応じて顧問を置くことができる。

2. 顧問は役員会の承認を経て委嘱する。

3. 顧問は本会の事業について役員会に助言を与えることができる。

## 第4章 会議

第15条(総会) 総会は会員をもって組織し、通常総会は毎年1回5月又は6月に開く。

2. 臨時総会は役員会が必要と認めるとき、又は家族会員を除く会員の3分の1以上から会議の目的を示して請求があったとき、開かなければならない。

3. 総会を招集するには少なくとも開催日の7日前には会議の日時、場所、会議の目的を示して会員に通知しなければならない。

第16条(総会の議決) 総会の議事は家族会員を除く出席者の過半数で決し、可否同数の場合は議長が決するところによる。

2. 規約の改定は家族会員を除く出席者の3分の2以上をもって決する。

3. 本会の存在に関わるほど重大であると判断される事項については、会員全員の意思を十分に反映できる方法を考慮しなければならない。

第17条(総会の議決事項) 総会では次の事項を議決する。

- (1) 規約の改定
- (2) 役員の実任及び解任
- (3) 事業計画、事業報告、予算、決算の承認
- (4) その他本会の運営上特に必要な事項

第18条(役員会の開催、成立) 役員会は、代表又は役員の実任の2分の1以上が必要と認めるとき、開催される。

第19条(役員会の議決) 役員会は本規約で定められたもの他、会務執行に関する事項その他の事項を議決して処理する。その議決は第16条の規定を準用する。

## 第5章 資産及び会計

第20条(資産及び運用) 本会の資産は次の通りとし、経費その他に運用する。

- (1) 本規約施行時に日本野鳥の会埼玉県支部から継承した資産
- (2) 会費及び寄付金
- (3) 事業から生ずる収入及びその他の収入

第21条(事業及び会計年度) 本会の事業及び会計年度は1年として、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

## 第6章 委員会及び部

第22条(委員会及び部) 本会は事業遂行の為、必要な委員会及び部を設けることができる。

2. 委員会及び部の設置及び廃止は役員会で決議する。

## 附則

第23条 この規約は、日本野鳥の会埼玉県支部規約(設立施行:昭和59年4月24日、改定施行:昭和62年6月7日・平成6年6月26日・平成12年6月25日・平成14年6月30日)に基づく平成22年6月27日総会における議決により、平成22年11月1日から改定施行する。

2. 日本野鳥の会埼玉県支部の資産は、本規約施行時に本会がすべて継承する。

3. 平成22事業年度は、平成22年4月1日から開始した日本野鳥の会埼玉県支部の事業と役員構成を引き継ぎ、平成23年3月31日までとする。



## 野鳥情報

**吉見町八丁湖公園** ◇4月24日、センダイムシクイを探しに出向くも声もなし。運良くキビタキ♂1羽、オオルリ♀1羽を確認。ともに今季初認。カラスに追われて、ツミが頭のすぐ上を旋回。胸が白い。♀だ！（榎本秀和）。

**さいたま市見沼区深作** ◇4月25日午前8時30分、カワセミ、「チー」と鳴いて柳の枝にとまった。コガモ7羽、ダイサギ、コサギなど。チュウサギが多くなった。コサギ、ダイサギ、キジ♂、セッカなど。5月17日、オオヨシキリ、セッカ、カワセミ、ダイサギ2羽、チュウサギ3羽、キジなど（本多己秀）。

**さいたま市岩槻区長宮** ◇4月26日、ダイサギ1羽、チュウサギ4羽、アマサギ2羽、コサギ2羽（鈴木紀雄）。

**さいたま市岩槻区掛** ◇4月28日、ようやくムナグロ19羽、チュウサギ1羽、コサギ2羽、アオサギ1羽（鈴木紀雄）。◇5月12日午前11時、ムナグロ86羽、9割は夏羽。優しい声で鳴いていた。キアシシギ3羽、コチドリ2羽、ダイサギ、アオサギなど。5月17日午前10時過ぎ、ムナグロ15羽、キアシシギ1羽、マガモ1羽、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、セッカなど（本多己秀）。



昨年5月、日中の森の中で突然フクロウの声。予想外の出会いに大慌て。感動的な一日でした（小林ますみ）。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇4月27日、アシ原より「ギョギョシ ギョギョシ」とオオヨシキリの声（鈴木紀雄）。◇5月1日、エゾムシクイのさえずり、オオルリのさえずりを聞くも姿確認できず。ツグミ、モズなど。5月15日、キビタキ♂1羽（藤原寛治）。

**さいたま市岩槻区浮谷** ◇5月10日午後6時頃、北緯35.93151 東経139.7141でガビチョウが大きな声で鳴いていた。この辺りで初めて聞いた（松原卓雄）。

**さいたま市北区日進町1丁目** ◇5月10日～5月27日、6月4日、キビタキがさえずる。一番鳴き声を聞きやすい建物にいる人の話では、6月10日現在も継続してさえずりが聞こえているとのことである。ここで20数年鳥を観察しているが、キビタキは通過するだけだった。留まって継続してさえずったのは今回が初めてだ（森本國夫）。

**さいたま市桜区在家** ◇5月15日、北緯35.8819 東経139.5886でタマシギ♂2羽 ♀1羽、水が入った耕作前の田んぼに生えた草に隠れていた（長嶋宏之）。

**蓮田市西城沼公園周辺** ◇4月26日、キビタキ♂成鳥1羽、センダイムシクイ2～3羽、エナガ10羽土、コゲラ2羽土、メジロ2羽、シジュウカラ2羽の混群でシデの枝を渡っていった。センダイムシクイはさえずっていたが、キビタキはダンマリだった。ウグイスのさえずりは2～3回聞いただけで、今年は少なかった。ツバメが1羽しか飛んでいない。たまに見るが、見ない日の方が多い。4月29日、アカハラが2羽で落ち葉をひっくり返していた。5月6日、芝生で見かけた4羽のツグミがいなくなった。繁殖地に帰ったようだ。5月19日、コアジサシ2羽が沼でダイビング。小魚を捕った。5月25日、今年生まれのシジュウカラが親の後を追って枝移り。カワセミがダイビングした。5月28日午後6時頃、ホトトギスの声を数回聞いた。5月31日、尾羽が数枚抜け、尾羽の先端と風切羽の後縁がぼろぼろのタカがゆったりと旋回。種名は分らずじまいだった。今年初めてカッコウの声が

数回聞こえた（長嶋宏之）。

**蓮田市笹山～黒浜** ◇5月6日午後2時、田んぼでムナグロ8羽、8羽でも本年初めて見られてホッとした。例年なら1500羽以上カウントしている。チュウサギ、コサギ、セッカ（本多己秀）。

**蓮田市黒浜** ◇5月12日午前10時頃、下沼でコアジサシ2羽、今季初認。マヒワ6羽、オオヨシキリ5～6羽、キジ♂3羽、ダイサギ5羽、チュウサギ3羽、コサギ1羽、セッカなど（本多己秀）。

**蓮田市関山** ◇5月8日、アオバズクの声を今年初めて聞いた。注意深く聞くと2羽で鳴き合っていた（細田敦史）。

**蓮田市蓮田** ◇5月12日午前9時頃、田んぼでキジ、ダイサギ、アオサギ、オオヨシキリ、セッカなど（本多己秀）。

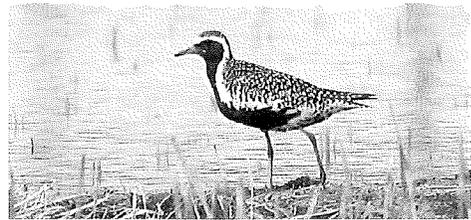
**上尾市瓦葺** ◇4月27日、県道大宮・栗橋線脇の遊水池で灌木にとまるハイタカ♀1羽、車で近づき、数mの距離で観察できた（鈴木紀雄）。

**北本市石戸宿自然学習センター** ◇5月3日午前9時30分、オオルリ、桜堤南側の新芽が出始めたけやきの木の天辺で朗々と長い間さえずっていた（立岩恒久、孫と妻と共に）。◇5月27日午前9時15分、新緑の北里の森でホトトギス、悲しい声で数回鳴き、9時30分頃に荒川方面へ鳴きながら飛翔して行った（立岩恒久）。◇5月3日、キビタキ、センダイムシクイ、アカハラのさえずりを聞く。エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロもさえずっていた。サンショウクイ1羽、鳴きながら上空を通過した。ガビチョウが大きな声でさえずっていた。結局、姿がよく見えたのはガビチョウだけだった（藤原寛治）。

**上尾市大宮ゴルフコース** ◇5月14日午前6時15分、14番の道路側でキビタキ、くぬぎ林にて美しい姿とすばらしい声を聞いた（立岩恒久）。

**三郷市上彦名～上彦川戸** ◇5月9日、自宅から徒歩2～3分位の田んぼでムナグロ9羽を見つけた。自宅からこんなに近くの、マンションや道路に挟まれた約200メートル

ル四方の小さな田んぼにもムナグロがいたのにビックリ！ 嬉しくなり、その後、毎日寄ってみたところ、10日も9羽、11日は8羽、12日は5羽、13日は1羽で、14日の1羽が終認だった。結局、6日間（以上？）の滞在で、元気を回復した個体から、順次飛び立って行ったかのようなだった＝写真下＝（高田範之）。



**越谷市七左町8丁目** ◇5月21日午前6時45分、シラコバトの鳴き声でしたので観察しようとしたら、電線にとまって鳴いていた1羽がすぐに飛び立つ。するともう1羽同じ方面に飛んで行った（小菅靖）。

**桶川駅西口公園** ◇5月22日午前6時20分、カッコウ、「カッコウ カッコウ」と懐かしい声を聞く。今年も来てくれた（立岩恒久）。

**桶川市鴨川2丁目** ◇5月23日午前6時15分、カッコウ、杉の木の頂で長い間大きな声で鳴いていた（立岩恒久）。

**羽生市羽生水郷公園** ◇5月28日、セグロセキレイが道案内。カワセミが水面を切った。オオヨシキリが目の前でさえずり、遠くでキジが鳴いた。セッカとヒバリが空高くさえずっていた。途中コチドリが道案内を交替。ホオジロが木陰でちよろちよろ。コアジサシが2羽、三田ヶ谷池に何度も飛び込んだ。冬季100羽いたカルガモは5羽に、5羽いたオオバンも1羽になっていた（長嶋宏之）。

**熊谷市荒川大橋付近** ◇6月12日午後5時、コアジサシが盛んに水面に降りる動作を繰り返していた。このあたりで見るのは久しぶりだ（森本國夫）。

#### 表紙の写真

コウノトリ目サギ科ササゴイ属ササゴイ  
久保田忠資(狭山市)



## 行事案内



アジサシ(町田好一郎)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費: 就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。持ち物: 筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻: 特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止。小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日: 8月1日(日)

集合: 午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通: JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:32 発で「自然観察公園前」下車。

担当: 吉原、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野(安)、山野、長谷川

見どころ: 暑い季節の探鳥会。高山に避暑? に行く鳥もいれば、じっと地元の木陰に羽を休めている鳥もいます。見えにくいし、声だけでは頼りない……。でもこんな時に限って、思わぬ鳥が出るものですよ。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日: 8月8日(日)

集合: 午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通: 秩父鉄道熊谷 9:09 発、寄居 8:51 発に乗車。

担当: 中里、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、後藤、千島、鶴飼、岡田

見どころ: 「日本一暑い熊谷」の大麻生、鳥たちは葉陰に身を潜め、暑さをしのいでいます。そんな鳥たちをそっと探します。河原では渡っていくシギやチドリが楽しめそうです。

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日: 8月15日(日)

集合: 午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援: さいたま市立浦和博物館

担当: 楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ: 27年目の三室探鳥会、参加者は相変わらず多い。4月78名、5月69名、6月75名が見沼田んぼの鳥と自然を楽しみました。「どうして三室へ」と聞けば「鳥もよいが、毎月仲間に会えるから」。鳥と人を愛して、お盆の一日にぜひどうぞ。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき: 8月21日(土) 午後3時~4時ころ

会場: 支部事務局 108号室

### 千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日: 8月22日(日)

集合: 午前9時30分、JR総武線船橋駅改札口付近。集合後京成バス 9:40 発船橋海浜公園行きで、終点下車。

交通: JR武蔵野線南浦和8:30→西船橋にて総武線乗換え。

担当: 佐久間、杉本、菱沼(一)、玉井、斎藤、高橋(優)

見どころ：残暑厳しい時期ですが、シギやチドリ  
の秋の渡りが始まっていて、ミヤコドリ、アジサシなど多数見られます。

### 千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：8月29日(日)

集合：午前9時40分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和8:35→南浦和8:38→南船橋9:30着。

担当：杉本、手塚、長谷部、伊藤(芳)、菱沼(一)、大塚、野村(修)

見どころ：干潟の鳥のシーズンです。昨年は大荒れの天気でしたが、今年はどうでしょうか。埼玉県支部の心きれいな会員のために、珍鳥が出現してくれることを期待しましょう。

### 長野県・白樺峠と乗鞍探鳥会(要予約)

期日：9月19日(日)～9月20日(月・祝)

集合：19日午前7時45分、JR高崎線本庄駅南口、武蔵野銀行前集合。JR高崎線大宮6:29→熊谷7:08→本庄7:28着。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

帰着：JR本庄駅南口20日午後8時頃の予定。

費用：24,000円(一泊3食宿泊料、バス代、高速料、保険料等)。過不足の場合は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：20名(当支部会員優先、応募多数の場合は抽選)。

申し込み：往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記、入山簿(〒 )まで。『しらこぼと』がお手元に届く日による不公平をなくすため、8月1日消印以降から有効受付とします。

担当：入山、玉井、藤澤、星

見どころ：埼玉県支部として初めての探鳥地です。白樺峠では、谷間から湧き出るように飛翔するサシバやハチクマなどタカ類の渡りを、乗鞍は、畳平でライチョウなど高山の鳥を期待します。

宿泊：男女別の相部屋です。個室の用意はで

きません。

その他：天候によって行程の変更があるかもしれない。タカの渡り観察予定日が雨天の場合、タカの渡りをあきらめ、蕨内正幸美術館、サントリー白洲蒸留所の見学などに変更することもあります。

### 山階鳥類研究所 第16回山階芳麿賞贈呈式と 記念シンポジウムのご案内

日時：平成22年9月23日(木・祝)午後2時から午後4時

会場：千葉県我孫子市けやきプラザふれあいホール(JR常磐線我孫子駅南口前)

内容：●第16回山階芳麿賞贈呈式

受賞者 鳥類分類学 森岡弘之博士

●記念シンポジウム「かたちの多様性」

「飛ぶためのからだ」ができるまで：恐竜の挑戦 真鍋真(山階鳥類研究所客員研究員・国立科学博物館地学研究部研究主幹)

「飛ぶかたち」の完成品：鳥の秘策 遠藤秀紀(山階鳥類研究所客員研究員・東京大学総合研究博物館教授)

司会・林良博(山階鳥類研究所所長)

参加費：300円

申込方法：往復はがき(1通2名様まで)

に「シンポジウム参加希望」・参加者全員の住所(郵便番号)・氏名・返信用の宛先を明記し、下記へお申し込み下さい。

申込み締切：9月10日(金)必着

定員：500名 応募多数の場合は抽選

申込み・問い合わせ：〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115(財)山階鳥類研究所「山階賞」係

電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106

E-mail:koho@yamashina.or.jp(メールでの申込みは受け付けておりません)

主催：(財)山階鳥類研究所

共催：朝日新聞社



## 行事報告

1月9～11日(土～月) ガン・カモ調査

ボランティア: 30名

青木正俊、浅見徹、新井巖、石井智、榎本秀和、海老原教子、大井智弘(夫人も)、大澤祐、工藤洋三、小池一男、小荷田行男、小林ますみ、駒崎政雄、佐久間博文、佐野和宏、進士悦行、関口善孝、田邊八州雄、手塚正義、内藤義雄、中村治、長野誠治、野口修、長谷部謙二、藤掛保司、藤澤洋子、船木数樹、森本國夫、山田義郎

2月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11名

新井浩、池田泰右、江浪功、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、武井暁嗣、増尾隆、松村禎夫

2月20日(土) 上尾市 丸山公園

参加: 18名 天気: 快晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ ノスリ キジバト アリスイ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) (番外: ドバト) 開始早々、ルリビタキ(多分♂若)を全員でジックリ観察。ジュリジュリとエナガも現れて、朝日に輝き美しい。南口を出た湿地では、当地探鳥会初記録となるアリスイが出現! 充実した探鳥会だった。(浅見 徹)

2月21日(日) 本庄市 坂東大橋

参加: 22名 天気: 快晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ トビ ノスリ チョウゲンボウ イカルチドリ セグロカモメ キジバ

ト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ セッカ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) (番外: ドバト) 集合場所にベニマシコ♂が現れて幸先良くスタート。ノスリが旋回、ホバリング、木の枝でポーズとサービスしてくれる。牧草地、ヨシ原ではヒバリとホオジロばかり。河原に急ぐ。まずホオジロガモがお出迎え。キンクロハジロの群れにはミコアイサ♀とホシハジロが各1羽。下流の中州の裏側にいるカワアイサも時々飛び立って姿を見せてくれた。少し上流に移って約900羽の大きなカモの群れを観察する。今年は久々にカモ類が多く、特にヨシガモが目立つ。順光できれいなカモ達を堪能して、最後はチョウゲンボウのホバリングで締めくくりとなった。(新井 巖)

2月21日(日) さいたま市 三室地区

参加: 73名 天気: 晴

カイツブリ カワウ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジ バン イカルチドリ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 新しい参加者が多くて、賑やかな探鳥会になった。オオタカやノスリがじっくり観察出来たので、全員が満足した。73名の参加者が楽しい笑顔を見せるとリーダーも満足、これからも三室は頑張るぞ。(楠見邦博)

2月21日(日) 志木市 柳瀬川

参加: 41名 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ セグロカモメ キジバト キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) (番外: ドバト) 野鳥の数は少なかつ

たが、開始早々チョウゲンボウが低く飛び、種類は例年通りの野鳥が観察できた。特にジョウビタキが何回も数メートルの距離に止まり、首をかしげて我々を観察する仕草で参加者や他の野鳥観察グループの人々を喜ばせてくれた。(持丸順彰)

2月27日(土) 深谷市 仙元山公園

雨のため中止。(新井 巖)

2月28日(日) 東松山市 物見山

雨のため中止。(千島康幸)

2月28日(日) さいたま市 岩槻文化公園

雨のため中止。(長野誠治)

3月13日(土) 加須市 加須はなさき公園

参加: 37名 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ ノスリ チョウゲンボウ クイナ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) スタート直後にオナガ数十羽の群れに遭遇。頭の完全に黒いカシラダカも見ることが出来、みんな大喜び。クイナもあちこちで出現。カワセミも何度も出現し雄雌を堪能できた。猛禽類も雄雌のチョウゲンボウが同時に飛翔。夏鳥のツバメが参考記録だったのが残念。(青木正俊)

3月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 28名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ トビ オオタカ ハイタカ ノスリ コジュケイ キジ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) ゴルフ場東南の植え込みの中にベニマシコがじっとして止まっていたので、皆でゆっくり観察できた。また、上空にはオオタカやノスリ、ハイタカ

が青空に気持ちよさそうに舞っていた。

(大澤 祐)

3月14日(日) さいたま市 見沼自然公園

参加: 19名 天気: 晴

カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ オオタカ バン オオバン キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外: ドバト) 第1回見沼たんぼクリーン大作戦に協力。鳥見が「主」で、ゴミ拾いは「従」のはずが、いつの間にか皆さんゴミ拾いに夢中! 観察種数に影響していないとよいのだが……。でも、我々の通過した後は、きれいになった見沼たんぼの復活! (浅見 徹)

3月14日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 28名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ トビ オオタカ ノスリ キジ クサシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外: ガビチョウ、カオグロガビチョウ) ぼかぼか陽気のなかの探鳥。樹上や鉄塔上のオオタカやノスリ、またそれらの飛翔なども観察できた。鳥の数は少ない印象であったが結果としてはまずまずであった。また、番外ではカオグロガビチョウまで出現した。(山口芳邦)

3月14日(日) さいたま市 三室地区(臨時)

参加: 16名 天気: 晴

カワウ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ オオタカ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ

ラス (29種) 支部が加盟する見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワークの第1回見沼たんぼクリーン作戦に協力して、臨時探鳥会を開催。45Lのゴミ袋29袋を収集した。参加者の努力にオオタカやカワセミが応えて飛翔する。今後も地元密着の支部でありたいと思った。(楠見邦博)

3月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会  
ボランティア: 8名

海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、柴野耕一郎、志村佐治、武井晁嗣、藤掛保司、松村禎夫

3月20日(土) 神奈川県 城ヶ島  
参加: 23名 天気: 晴

オオミズナギドリ ウミウ ヒメウ トビ イソシギ トウゾクカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ウミネコ ウミスズメ カンムリウミスズメ ツバメ ハクセキレイ イソヒヨドリ ツグミ ウグイス スズメ ムクドリ ハシボソガラス (19種) (番外: ドバト) 強風で岩礁まで行けず、京急ホテルの駐車場下から観察。地元グループによれば「超ベテラン向きの観察条件」だったが、カンムリウミスズメやウミスズメを観察した人も。その域に達しない人々(私も含めて)は、あきらめムード。昼食のマグロの相談を始めた頃、近くをトウゾクカモメが飛んだ。(小林みどり)

3月21日(日) さいたま市 三室地区  
参加: 24名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ オオタカ キジ バン イソシギ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) モモやレンギョウが咲く風景、風を避けて飛来したセグロカモメや幾度となく出現したカワセミを楽しんだ。緑区のキレイきれいな作戦、支部が参加したクリーン作戦できれいになった見沼たんぼが印象に残った。(楠見邦博)

3月22日(月、休) 長瀬町 宝登山  
参加: 48名 天気: 晴

トビ オオタカ キジバト アオゲラ コガラ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) (番外: ガビチョウ) 長瀬駅前を出発。ロープウェイ駐車場までは鳥が少ない。しかし、上空を旋回するオオタカ成鳥を全員見られ、いよいよ山登り。蕾膨らむ桜にビンズイが尾羽フリフリお出迎え。ゴールの梅園では見頃の花々が良香をはこび、大展望にお弁当がひととき美味しく感じられた。(井上幹男)

3月28日(日) 行田市 さきたま古墳公園  
参加: 28名 天気: 曇

カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ バン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ アオジ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外: ドバト) 二子山古墳にアメリカコガモとの情報もあったが、予定どおりのコースでスタート。高枝にとまるシロハラ、鋭く鳴き舞ったオオタカで探鳥会の雰囲気になってきた。後は古墳の池に急ぎ、全員でアメリカコガモを確認し、ぐっと盛りあがった。(内藤義雄)

3月28日(日) 狭山市 入間川  
参加: 26名 天気: 曇

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) (番外: ガビチョウ、ドバト) 暖かい日が続く、3月中に桜が満開になるかと思ったら突然冬に逆戻り。入間川の上空には、ツバメ、イワツバメ、ヒメアマツバメがたくさん飛んでいるが、彼等のお腹を満たすだけの虫が飛んでいるのだろうか?(長谷部謙二)



●**関東ブロック協議会運営要領案など**

関東ブロック協議会の今年度幹事支部である千葉県支部から、協議会の運営要領と運営要領細則の改定案が、構成全団体に送られてきました。公益法人制度改革に伴う言葉の置き換えが主なもので何も問題がないのですが、一部の規定などが削除されていることに対し、埼玉県支部として公開質問状を提出、千葉県支部から適切な回答がありました。次回協議会は、9月4日(土)～5日(日)の2日間、千葉県内で開催される予定です。

●**他支部の名称変更**

栃木県支部から、財団法人日本野鳥の会が新公益法人制度の公益財団法人になった日をもって「日本野鳥の会栃木」と名称変更するとの連絡がありました。

●**見沼たんぼ市民ネットワーク**

5月19日(水)に開催された総会と運営会議に楠見邦博が出席。写真コンクールへの協力依頼に対して6月20日(日)支部役員会で検討、楠見を審査員として推薦することと、入選者に対する副賞提供が決まりました。

●**評議員会に出席**

5月29日(土)都内で開催された財団(本部)評議員会に橋口長和が評議員として出席。平成21年度事業報告・決算などについて審議しました。現行制度で最後の評議員会です。

●**読売新聞折り込みで探鳥会案内**

6月8日付け読売新聞朝刊に折り込み配布された『さわやかよみうり6月号』に、支部の探鳥会案内特集が掲載されました。

●**会員の普及活動**

6月12日(土)さいたま市立博物館と三室公民館共催の親子探鳥会が見沼たんぼ周辺

で開催され、楠見邦博、新部泰治、青木正俊、小菅靖が、「スズメから鳥の世界へ」をテーマに、33人の参加者を指導しました。身近な鳥に絞って探鳥。鳥だけでなく、草花やキュウリ、ナスなどの野菜も鑑賞。カワラヒワ、スズメ等の水浴びが子供たちの興味を誘っていました。子供たちが自然に親しむ契機になることを祈る探鳥会になりました。(報告：楠見)

●**会員数は**

7月1日現在 2,070 人です。

**活動と予定**

6月12日(土) 7月号校正(海老原美夫、大坂幸男・長嶋宏之・山田義郎)。

6月20日(日) 役員会(司会：榎本秀和、各部の報告・12月までの行事予定・関東ブロック協議会出席者・総会準備・その他)。

6月22日(火) 「支部報だけの会員」に向け7月号を発送(倉林宗太郎)。

●**8月の予定**

8月7日(土) 編集部・普及部・研究部会。

8月14日(土) 9月号校正(午後4時から)。

8月15日(日) 役員会(午後4時から)。

8月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

**編集後記**

編集会議の前日、メールで送られて来た原稿をチェック。と、「さいたま市にレンカク。行くといいよ」のメール。迷わず編集会議の方を優先する自分でありたいと思う。(山部)

6月末に「千葉茨城県境付近にレンカク」。間もなく「猛禽にやられた」。7月初めに「さいたま市にレンカク」。間もなく「いなくなった」だって。あ、そ。(海)

息子家族とさいたま市内で昼食後、F氏ご夫妻にばったり。近くの遊水池でレンカクを見て来たという。その足で久しぶりのレンカク。運が良かったなあ。(山口)

しらこぼと 2010 年8月号(第 316 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル  
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断  
 転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社